

r e p o r t

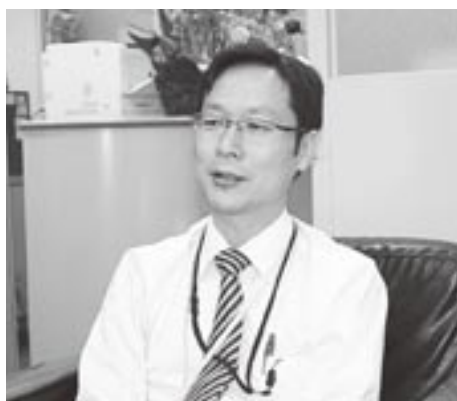
事例レポート ①

サイクルシェアリングサービスの社会実験と「ポロクル」の営業開始

(株)ドーコンモビリティデザイン

今年4月、札幌都心部に新しい交通のシステム「ポロクル^{※1}」が登場した。外見はこれまでの自転車と全く同じであるが、専用のサイクルポートにおいて、乗りたいときにだけ借りられて、どこへでも返すこと（乗り捨て）ができるという、サイクルシェアリング（自転車共同利用）サービスである。

パリなど欧州先進都市で導入が進むサイクルシェアリングサービスにいち早く着目し、社会実験を重ねながら、事業化にこぎつけた、(株)ドーコンモビリティデザイン（略称：DMD）の取締役事業部長澤充隆さんにお話をうかがいました。



※1 ポロクル
(株)ドーコンモビリティデザインが事業化したサイクルシェアリングサービスの呼称。札幌（Sapporo）の“ポロ”とサイクル（Cycle）の“クル”を合わせたもの。

「ポロクル」のサイクルシェアリングサービス

レンタサイクルは、借りた場所に自転車を戻さなければいけませんし、利用の仕方によっては駐輪場を探したり、盗まれる心配もしなくてはなりません。一方、サイクルシェアリングサービスは移動のときだけ借りられてどこでも（ポートのあるところならば）乗り捨てできるので、駐輪場を探す必要もないし、盗まれる心配もありません。

「ポロクル」の個人での利用は30分まで105円で、1カ月定期だと1,050円です。共有する自転車を盗難から守り、きちんと利用してもらえるよう、電子的に個人認証できるシステムを導入しています。使いたいと思ったときにポートで簡単に登録できますし、インターネットでも登録できます。ポロクルカウンター（登録所）に来ていただいても結構です。

最近、高額な損害賠償を請求されるような自転車事故が増えています。DMDで貸出しする自転車はTSマーク^{※2}に付帯した保険に入っているため、一定額の傷害と損害賠償保険が適用されます。

ポロクルは、市民だけでなく、観光客の方々にも広く利用していただきたいと思っています。

また、法人の業務利用も積極的に働きかけたいと思っています。法人利用の場合はICカード1枚（登録手数料1,050円、ICカード代1,050円）で従業員のみなさんが共同利用できます。基本料金は1カ月3,150円で、1回60分までであれば何回でも利用が可能です。営業などで外出機会の多い方々には、便利でお得なシステムであると考えています。

車利用を減らし低炭素社会を目指すCSR（企業の社会的責任）活動の一環としてもぜひ活用していただきたいと思っています。

サイクルシェアリングへの取組みの経緯

自転車の魅力は、なんといってもその手軽さにあります。歩くよりは早く、遠くへ行けて、自動車より小回りが利きます。経済的な乗り物であることも大きな

※2 TSマーク
点検整備済みの自転車に貼付されるシール。自転車安全整備店で自転車安全整備士の資格を有したものが点検・整備し、安全な普通自転車であると認められた自転車に貼ることができる。TSマークには賠償責任保険および障害保険が付帯している（貼付から1年間有効）。

魅力です。昨今の健康ブーム、ガソリンの高騰、環境意識の高まりなどを背景に、自転車の価値を見直す人が増えてきています。

自転車で街中を走る光景も多く見かけるようになりました。「まち乗り」という言葉が流通しはじめ、自転車でまちを走ることは今やかっこいいファッションやスタイルとして定着しつつあります。

都心部では商業施設や観光施設、業務施設が集積していて、ちょっとした用を足しながら走り回するには、自転車が最もその能力を発揮します。しかし、困ったことに、都心部での駐輪場不足は深刻で、盗難の心配もしなければなりません。

こうした中、2007年7月にパリで自転車の共同利用システムがスタートして話題になりました。こういうシステムが札幌でもできたらいいなという話が職場内でもあって、08年3月に有志が集まって自主的な勉強会「チーム自転車創業」を立ち上げました。

間もなく、東京大学大学院工学系研究科の羽藤英二准教授が自転車の社会的な共有システムを研究していることを知り、同年8月には東京大学・北海道大学・(株)ドーコンによる産学研究グループを結成、10月にはサイクルシェアリングを仮想体験するイベント「北海道モビリティカフェ2008」を実施しました。

このイベントでは、札幌市内にコミュニティサイクルシステム^{※3}(サイクルポート)があると仮想して、学生たちに協力してもらい、実際に自転車を好きなどころで借り、好きなどころで乗り捨ててもらおうというものです。GPSを使ってその様子をインターネットで生中継し、午後のフォーラムではサイクルシェアリングのあり方を議論するワークショップを行いました。

事業化を目指す社会実験

翌09年には、環境省のサイクルシェアリングの社会実験として取り上げられ、その実施主体として産学研究グループを拡大した「北海道モビリティデザイン研究会^{※4}」を組織しました。

※3 コミュニティサイクルシステム

共用の自転車を通常のレンタサイクルのように借りた場所に返すだけでなく、他の駐輪場(サイクルポート)でも貸出・返却を可能としたシステム。サイクルシェアリングサービスも同意。2007年にフランスのパリ市でvelib(ペリブ)というコミュニティサイクルが導入されるなど、欧米諸国では既に都市の顔として定着している。

※4 北海道モビリティデザイン研究会HP

<http://www.docon.jp/hmd/index.html>

社会実験のためには、サイクルポートの製造・設置はもちろんですが、システムの整備、自転車の運搬体制づくりなど、多くの課題を一つずつ解決していかなければなりません。

サイクルシェアリングの全体システムは、羽藤先生からシステムの開発に取り組んでいた(株)トランスフィールド(京都)を紹介してもらいました。サイクルポートは、酪農機器のメーカーである(株)土谷製作所(札幌)が協力してくれました。さらに、通信や発電設備を備えて、ロック機構も一から製作する必要があったため、(株)NTTドコモ北海道支社やシスコ(株)(札幌)も協力してくれることになりました。

09年春にはサイクルポートが完成し、8、9月には、自転車50台を購入、サイクルポート9基で、自転車利用を無料にした社会実験を実施しました。

その後、(株)NTTドコモ本社が参画し、決済システムが整備されたため、(株)ドーコンと(株)NTTドコモの共同事業として、翌10年6～9月にはポートを18カ所まで増やし、自転車100台で自転車利用料を有料にした実証実験を行ないました。これにより、有料でも多くの人が利用してくれるという結果が得られ、今回の事業化に弾みがつきました。

そして、私たちはこの2回にわたる社会実験を通じて多くの仲間を得ました。その一つは、環境NGO「ezorock(エゾロック)」という、青年層を中心とした環境団体です。お客さまに気持ちよく使ってもらうために、ポロクルのサイクルポートごとの偏りをなくす自転車の運搬などに関わってくれています。このとき彼らは、実際に札幌のまちを自転車で走行しますが、歩行者の安全を最優先するなど、自転車利用マナーの啓発などにも大きな役割を果たしています。も



社会実験での「自転車は左側通行」のシャツを着て、自転車の運搬をするエゾロックメンバー

う一つは、札幌大通まちづくり(株)です。「すべてはまちにやってくるお客様のために」といった彼らの理念は、私たちにも共通している考えです。ポロクルの導入を地域の活性化に結び付けられるのではないかと考え、さまざまな角度から協力・連携していただいています。

新しい利用シーンの創出、さらなる啓発普及が課題

4月に(株)ドーコン100%出資により、ポロクルの運営を主軸にした新会社（DMD）が設立されました。DMDが提供するサイクルシェアリングサービスポロクルは、今年9月までにサイクルポートを40カ所設置、自転車を300台配置することを目標にしています。

サイクルポートは、事業の効率性を重視し、札幌都心部（半径約2km圏内）に配置する予定です。主に建物の空きスペース等に、ビルオーナー等の協力を得ながら確保しています。昨年の実験では、「テナントに対するサービス向上」につながるとして、積極的に協力してくれたビルオーナーの方もいました。

現時点では、目標としている40カ所のうち30カ所程度までは確保できる方向で交渉が進んでいますが、私たちが最も重要視している札幌駅～大通駅間がなかなか進まない状況です。サイクルポートの設置に協力していただける方がいらっしゃいましたら、DMDまでご連絡いただきたいと考えています。

ポロクルは将来、札幌市民1万人ぐらいには使ってもらいたいと思っています。そのためには、サイクルシェアリングの新しい使い方をどんどん提案していきたいと考えています。

例えば、企業として活用していただくことで、日中の業務による移動の効率化を促進できるほか、社用車による移動から切り替えることでCO₂排出削減にもつ

ながり、企業のCSR活動としての意味合いを高める効果もあります。また、都心の託児所にポートを併設すれば、子供を預けて職場に自転車で出勤したり、お母さんだけショッピングを楽しんだりすることも可能になります。ポロクルがあることによって親と子供がいつも結ばれていることになります。

さらに、札幌には都心部から少し離れた位置に立地するホテルが多くありますが、例えば豊平川を越えたところのルネッサンス sapporo ホテルにはいち早くポロクルを導入していただきました。ポロクルの導入で行動範囲が広がり、観光客が札幌都心を周遊したり、札幌市民のホテル利用を促すこともできます。これに続き、多くのホテルがポロクルを導入したいとお声をかけてくださっています。

一方、ポロクルを路上放置自転車の利用者に使っていただくことで、放置自転車を減らす効果も期待されます。ポロクルの利用によって放置自転車が減少することになれば、放置自転車の撤去コストの軽減にもつながると考えています。

このように、サイクルシェアリングは、都心部の移動をサポートするだけでなく、自転車利用マナーの向上、商店街や観光施設の活性化、放置自転車問題への貢献、車利用の減少に伴うCO₂削減という地球環境問題への貢献などの社会的課題解決のきっかけとなる事業であると考えています。そして、地域のプレイヤーの活動にポロクルが組み込まれていくことで、ポロクルの普及が進み、ひいては札幌のまちが元気になるのではないかと考えています。

そして今後も、関係機関のさまざまな協力・支援を得て、社会的効果の試算などのノウハウを蓄積・提供しながら、着実にサイクルシェアリングを普及させることで、公共政策の一翼を担っていきたいと思っています。



※ 「ポロクル」の詳細は、HP <http://porocle.jp/index.html> をご覧ください。